

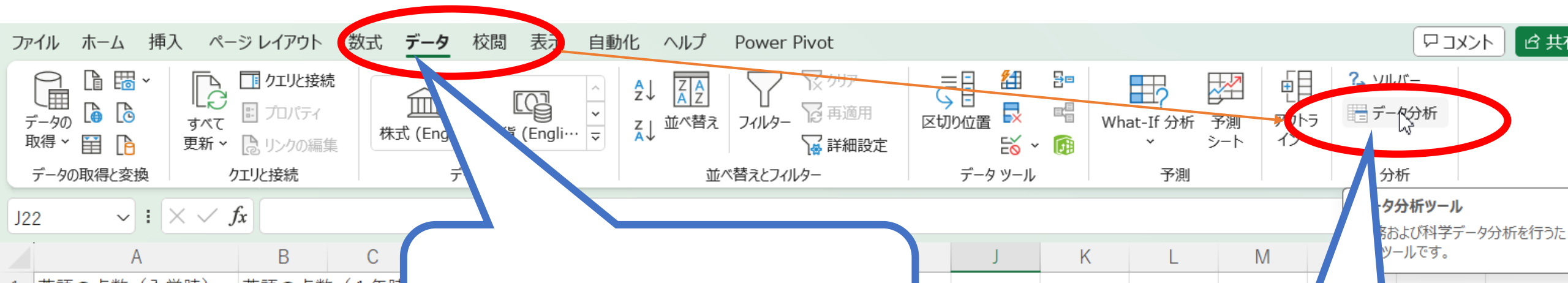
Excel解説8.4

分析ツールによる平均の差の検定 (等分散を仮定しない場合)

データファイル 英語の点数50

	A	B	C	D	
1	英語の点数（入学時）	英語の点数（1年時）			
2	26	39			
3	19	26			
4	28	42			
5	44	42			
6	22	32			
7	30	46			
8	20	36			
9	40	48			
10	35	49			
11	21	28			
12	30	42			
13	48	47			
14	37	44			
15	37	40			
16	30	32			
17	34	45			
18	15	27			
19	24	42			
20	37	42			
21	29	41			
22	44	51			
23	39	52			

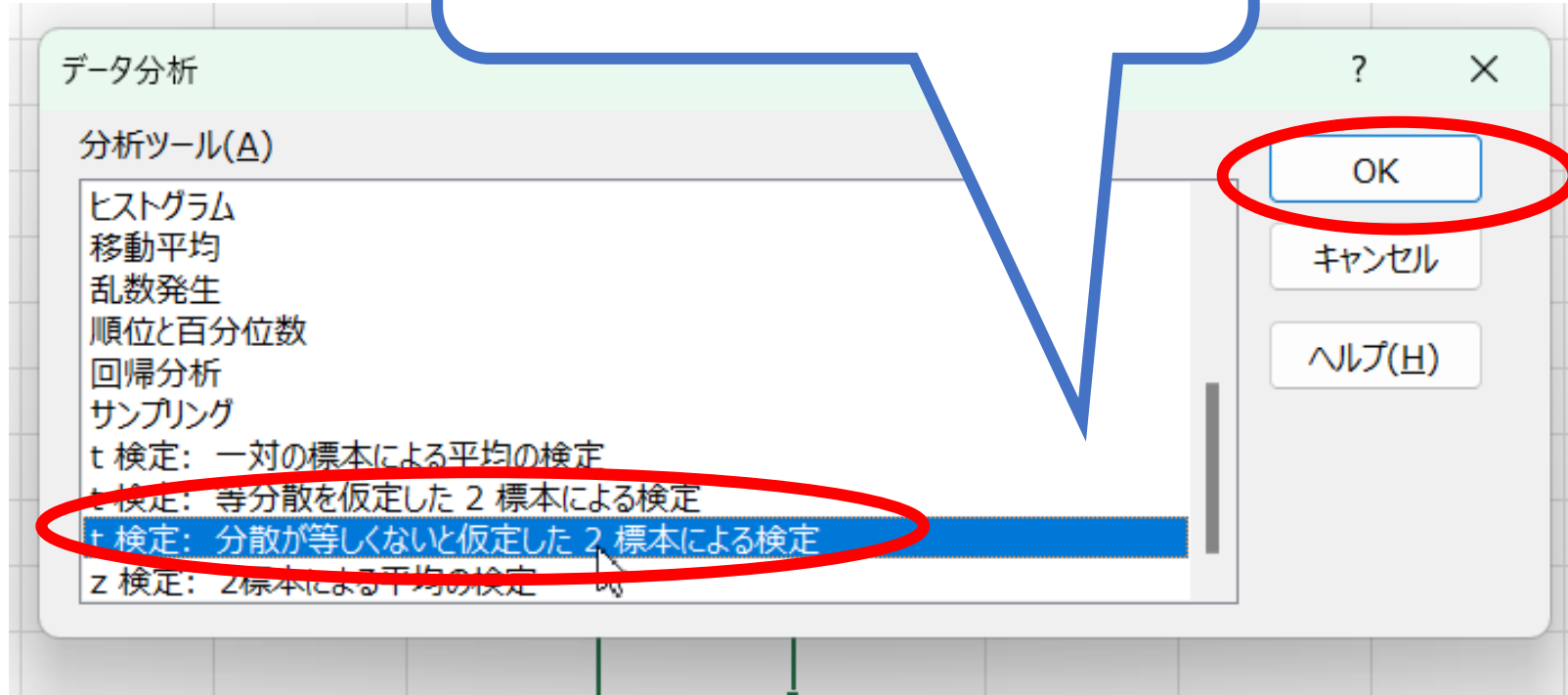
データを開く



①データタブをクリック

②データ分析をクリック

下のほうにある、「t検定：分散が等しくないと仮定した2標本による検定」をマウスでクリックし、OK



t 検定: 分散が等しくないと仮定した 2 標本による検定

入力元

変数 1 の入力範囲(1):

変数 2 の入力範囲(2):

二標本の平均値の差(H)

☐ ラベル(L)

α (A):

出力オプション

☐ 出力先(O):

☒ 新規ワークシート(P):

☐ 新規ブック(W)

OK

ヘルプ(H)

①クリック

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
(入学時)	英語の点数 (1 年時)											
26	39											
19	26											
28	42											
44	42											
22	32											
30	46											
20	36											
40	48											
35	49											

②マウスで1年時のデータをドラッグしたらクリック

1年次の英語の点数を入力

入学時の英語の点数を入力

t 検定: 分散が等しい (既定) 2 標本による検定

入力元

変数 1 の入力範囲(1):

変数 2 の入力範囲(2):

二標本の平均値の差(H)

☐ ラベル(L)

α (A):

出力オプション

☐ 出力先(O):

☒ 新規ワークシート(P):

☐ 新規ブック(W)

設定ができたならOKをクリック

t 検定: 分散が等しくないと仮定した 2 標本による検定

入力元

変数 1 の入力範囲(1):

変数 2 の入力範囲(2):

二標本の平均値の差(H)

☒ ラベル(L)

α (A):

出力オプション

☐ 出力先(Q):

☒ 新規ワークシート(P):

☐ 新規ブック(W)

OK

キャンセル

ヘルプ(H)

	A	B	C	D
1	t-検定: 分散が等しくないと仮定した2標本による検定			
2				
3		英語の点数 (1年時)	英語の点数 (入学時)	
4	平均	41	31.84	
5	分散	58.32653061	79.07591837	
6	観測数	50	50	
7	仮説平均との差異	0		
8	自由度	96		
9	t	5.525648299		
10	P(T<=t) 片側	1.40493E-07		
11	t境界値 片側	1.66088144		
12	P(T<=t) 両側	2.80985E-07		
13	t境界値 両側	1.984984312		
14				
15				